



がいようばん
概要版

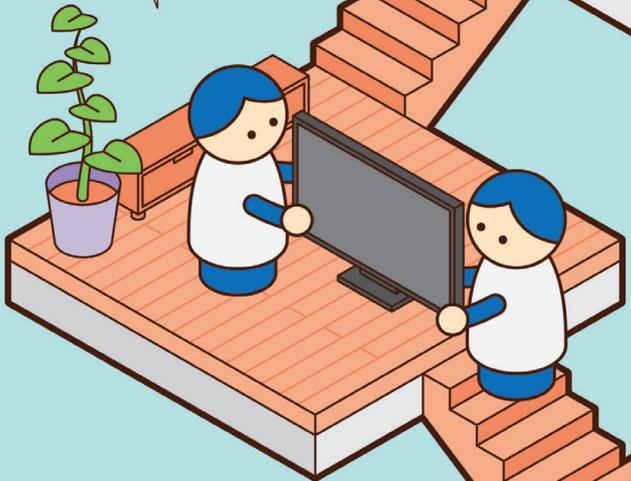
浸水被害の備えから復旧まで

住宅における
水害対応マニュアル

新しい生活



復旧工事



申請手続



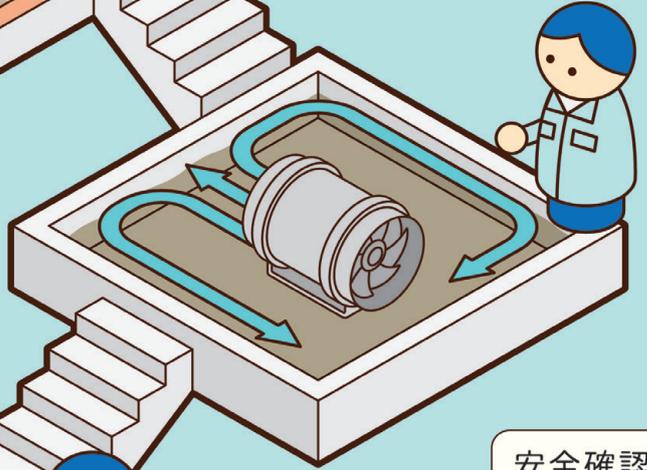
室内清掃



内装解体



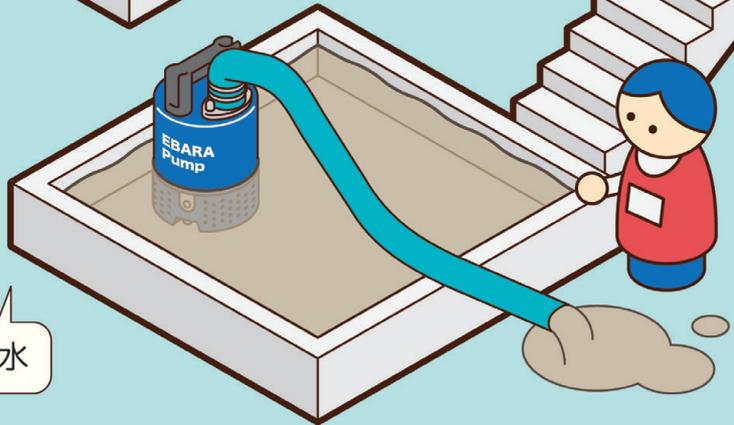
床下乾燥



安全確認

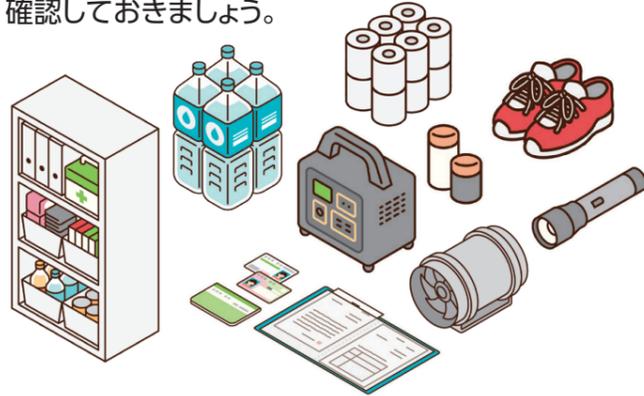


床下排水



防災用品以外の準備も万全に

普段の食料品や日用品を水没しにくい場所に収納することで、災害の備えになります。2階や1階の高所に保管する工夫を。また、建物が被害を受けた際に応急処置を依頼する建築会社の連絡先や災害時に必要な書類を記入しておき、行政への手続き方法も確認しておきましょう。



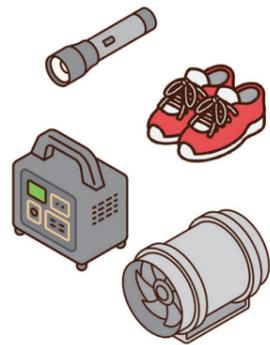
収納空間



日常の食料・保存食・調味料・嗜好品

衛生用品、薬などの消耗品

防災用品



靴・作業用手袋・簡易トイレ・ラジオ・バッテリー・ライト・充電ケーブル・眼鏡・ダクトファン

持ち出し袋・水(1ℓ)・食事(3食分)・薬・現金・マット・枕・手袋

書類



預金通帳及びコピー・災害関連書類の記入例・身分証明書(マイナンバーカードなど)・応急処置の連絡先(建築会社・建物・車の保険会社)

情報を取得し、事前準備を!

気象警報や注意報を取得し、貴重品や生活必需品は2階へ、移動が難しいものは1階の高い位置へ移動させましょう。車両の移動も検討を。また、避難所の開設情報を入手し、移動するか自宅2階へ避難するか判断しましょう。2階に避難する際は、1階の電気やガスを遮断してください。



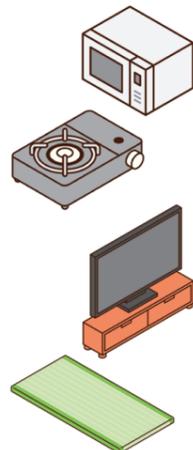
事前準備



1階電気遮断・ガス管の遮断

水のう・水はり(台所・洗面台・風呂・トイレ)

物品移動



1階から2階に移動

日用品・食料品・調理器具・靴・衣服など

貴重品・現金・高級品・写真など

1階の荷物を少しでも高いところに移動

テレビ・パソコンなど

畳・カーペット・襖・障子など

情報収集・避難



避難場所の判断

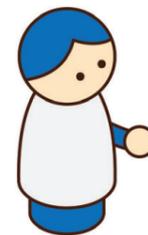
避難所に水平避難

自宅2階に垂直避難

車での移動を検討(燃料を満タンに!)

安全な場所に避難し、身を守る!

水害は、短時間のうちに一気に危険な状態になることがあります。むやみに行動せず、安全な場所で待機し、情報収集に努めることが大切です。困難な状況に置かれそうな場合は助けを呼びましょう。



被災中は動かないこと

屋外に出ない

いきなり片付けをしない



情報収集・ヘルプ発信



被害の記録を取ってから室内の動線確保

室内外の安全を確認し、応急処置の準備に入りましょう。いきなり片付けるのではなく、行政へ被害状況を共有することを想定し、「被害の記録」を取っておくことが重要です。記録を終えたら、搬出する荷物の選別や搬出場所を確保し、室内の動線も確保しましょう。



被害状況の整理

被害の記録



室内の撮影・屋外の撮影

損失物品の記録

応急処置の準備

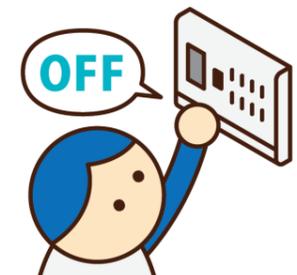


搬出する荷物の判断

室内の動線確保

屋外の搬出場所の確保

安全確認



屋内 感電・ガス漏れ・危険生物・ブレーカーなど

屋外 重油・汚染物質・流れ着いたもの・飛んできたものなど

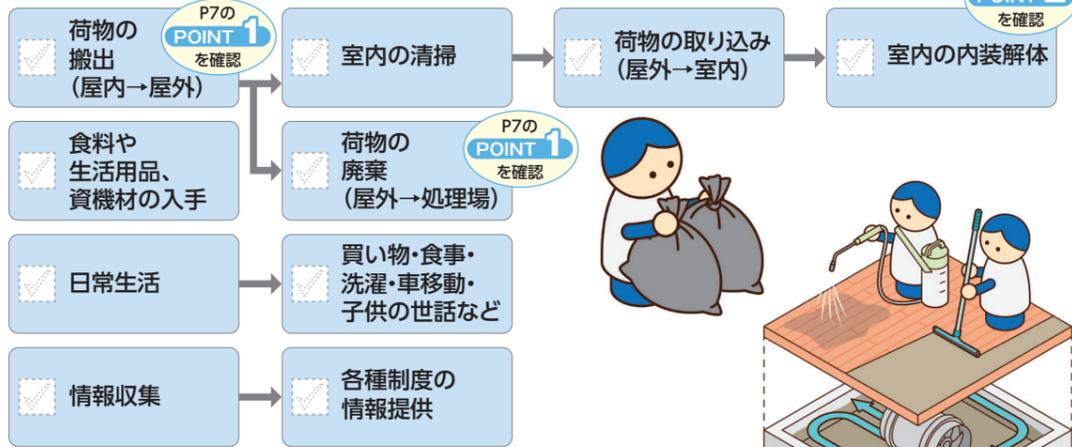
やることリスト

重要 応急処置は、5つの「やることリスト」に同時に取りかかること。

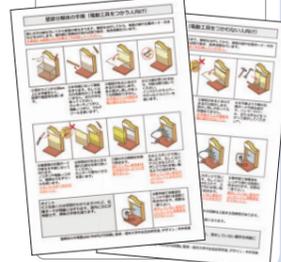
建物

1
 生活周りを整える

家族・知人・友人・ボランティア



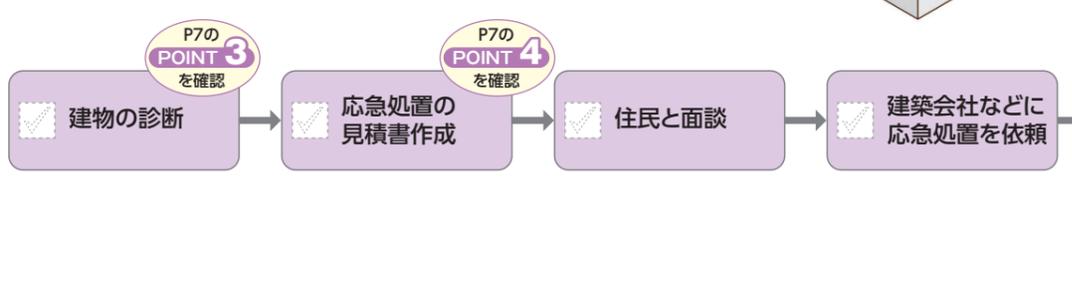
内装解体の手順の資料はこちらから



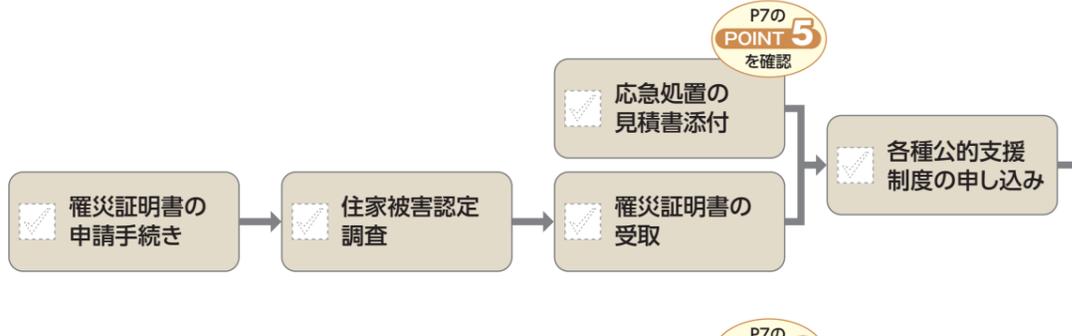
生活

2
 復旧に向けた取り組み

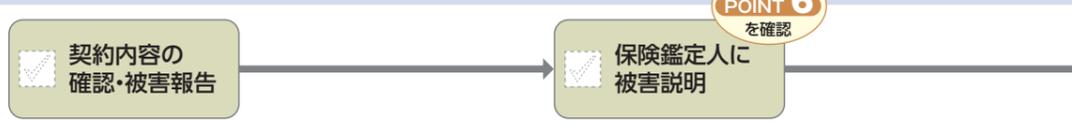
建築会社・工務店・建築士・技術者 他



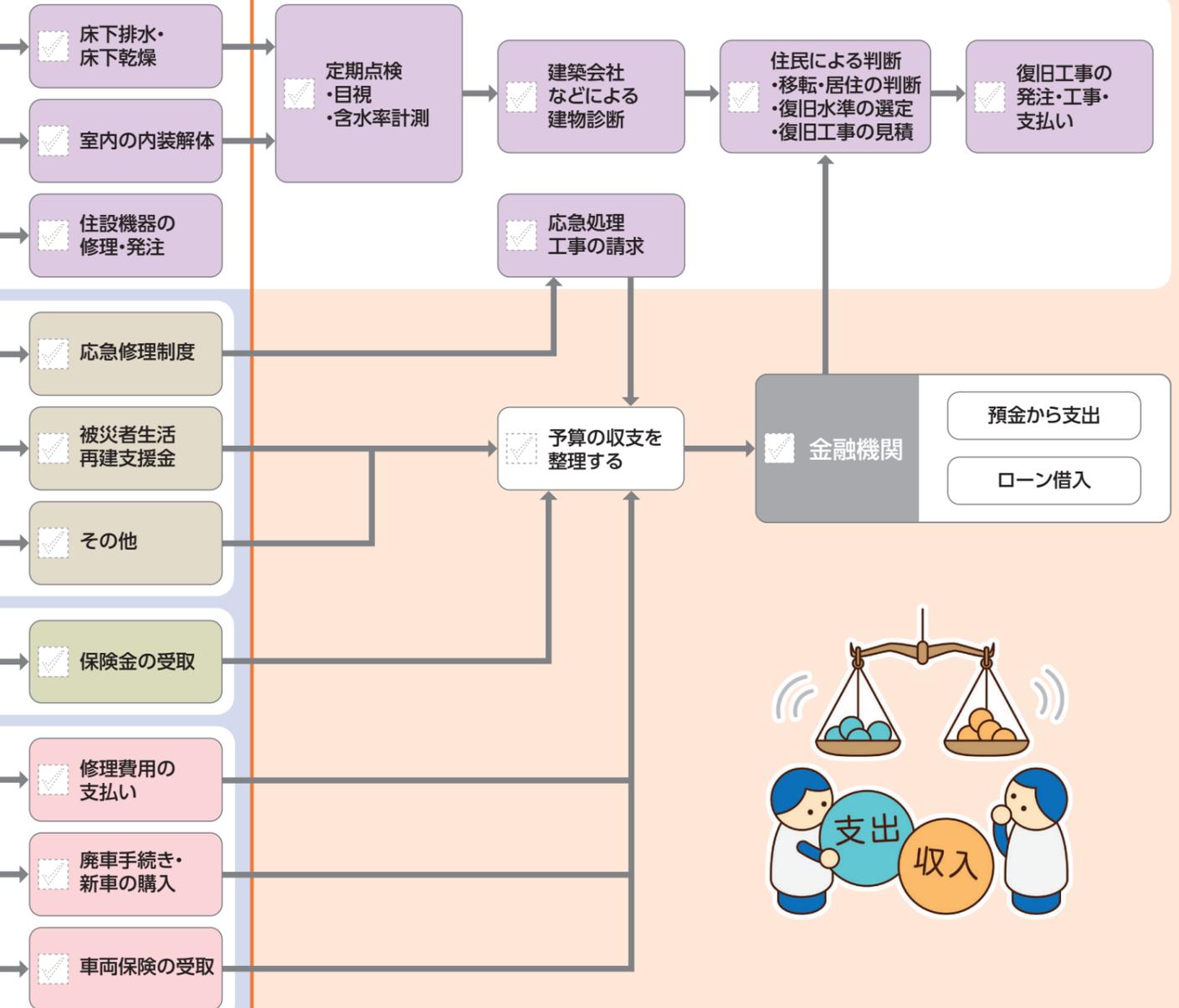
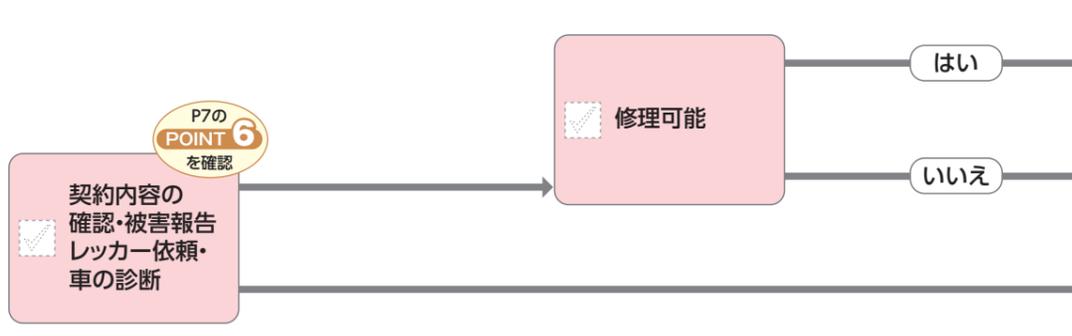
3
 行政関係の手続き



4
 保険の手続き (建物)



5
 保険の手続き (車)



やることリスト

建物

1
生活周りを整える

2
復旧に向けた取り組み

3
行政関係の手続き

4
保険の手続き
(建物)

5
保険の手続き
(車)

生活

応急処置

カビによる汚染を抑えるため、室内の乾燥を!

被災直後から数日でカビによる室内汚染が顕著になるため、建物を乾燥させる必要があります。荷物の搬出や室内清掃などに数十人規模で必要になるので、知人や友人・ボランティアの方に応援を依頼しましょう。同時に自宅避難ができるよう、応急処置では床板を解体せず、建築会社などに依頼してダクトファンによる床下送風と内装解体を急いでください。荷物の搬出、室内の清掃は1週間以内、応急処置は2週間～6週間の完了を目安に進めましょう。

行政と住宅・車の保険会社に連絡

行政に応急修理制度や被災者生活再建金を申請する他、住宅の保険会社にも連絡しましょう。この際に、建築会社から入手した「見積書」を必ず添付することが大切です。一般的に床上浸水半壊程度の場合、復旧までの改修費用は新築価格の40～55%かかると言われているため、すみやかな申請が重要です。また、車両が被害を受けた場合は保険会社にも申請を行い、修理・廃車の判断をし、予算に組み込みましょう。

復旧工事に向けて

建物診断を受け、建物に残された被害を把握

応急処置後は、建築会社などの建築技術者に建物診断を依頼し、今後の方針を相談しましょう。建て替えや売却が必要なのか、修繕やリフォームで住み続けられるのかを判断し、復旧する場合は、見積もりを出してもらい復旧水準も検討します。費用がかかることなので、家族でしっかり話し合うことが大切です。方針が決定したら、工事の発注と支払いを済ませましょう。

予算の収支を整理し、方針を決定

行政や保険会社から支給される金額と、建築会社などへ支払う金額を整理し、予算の収支を整理しましょう。収支を算出する情報が揃わない限りは、復旧工事の判断がしにくく、さまざまなことが後倒しになっていきます。右記のガイドラインも参考にしながら、5つの「やることリスト」を同時に進め、すばやい復旧を目指しましょう。

POINT 1

濡れた荷物は、カビが生える前に家の外に出してください。確実に捨てるものは道路際に、それ以外は敷地の奥に移動させましょう。作業量が多いため、不用品の分別や車での運搬は、住民ではなく支援者が行うことを推奨します。

POINT 2

応急処置の段階で床板を解体することは、室内の空気汚染や生活の不便などが生じるため推奨しません。内装解体を優先してください。一部の作業は建築業者でなくてもできるため、知人や友人らと協力して進めましょう。

POINT 3

建築会社に依頼することは、復旧の要です。事前にリストアップしておいた建築会社などにすみやかに連絡しましょう。なお、災害に便乗した悪質商法には十分にご注意ください。

POINT 4

建築会社に応急処置の具体的な内容を決めてもらい、応急処置の見積書を作成してもらいましょう。復旧工事の総額を算定してもらうことで、保険鑑定人に被害状況の説明がしやすくなるだけでなく、復旧の計画も立てやすくなります。

POINT 5

被災したら、まず罹災証明書の申請を行いましょう。応急修理制度が利用できる場合は、罹災証明書と応急処置の見積書を準備してください。なお、復旧工事にかかる費用は、規定額までは行政から建築会社に支払いが行われるため、住民が先に支払わないようにご注意ください。その他にもさまざまな支援制度があるため、行政の情報を入手するようにしましょう。

POINT 6

保険会社の鑑定人に被害状況を伝えましょう。復旧工事にかかる総額の算定があれば、参考資料として提出することが大切です。また、車が水害の影響を受けると、移動手段が断たれます。車の保険会社にも連絡し、車の診断やレッカーでの移動、買い替えの判断などをスムーズに行えるようにしましょう。

参考となるガイドライン

**「実体験から学ぶ!水害対策最前線」
信州大学 中谷岳史先生**

本冊子の内容を動画で詳しく解説しています。

【前編】



【後編】



※一部、建築会社向けの内容があります。

「被災者支援に関する各種制度の概要」

内閣府

被災者支援制度の冊子が閲覧できます。制度利用の条件などを確認したいときに役立ちます。



「災害救助法の適用状況」

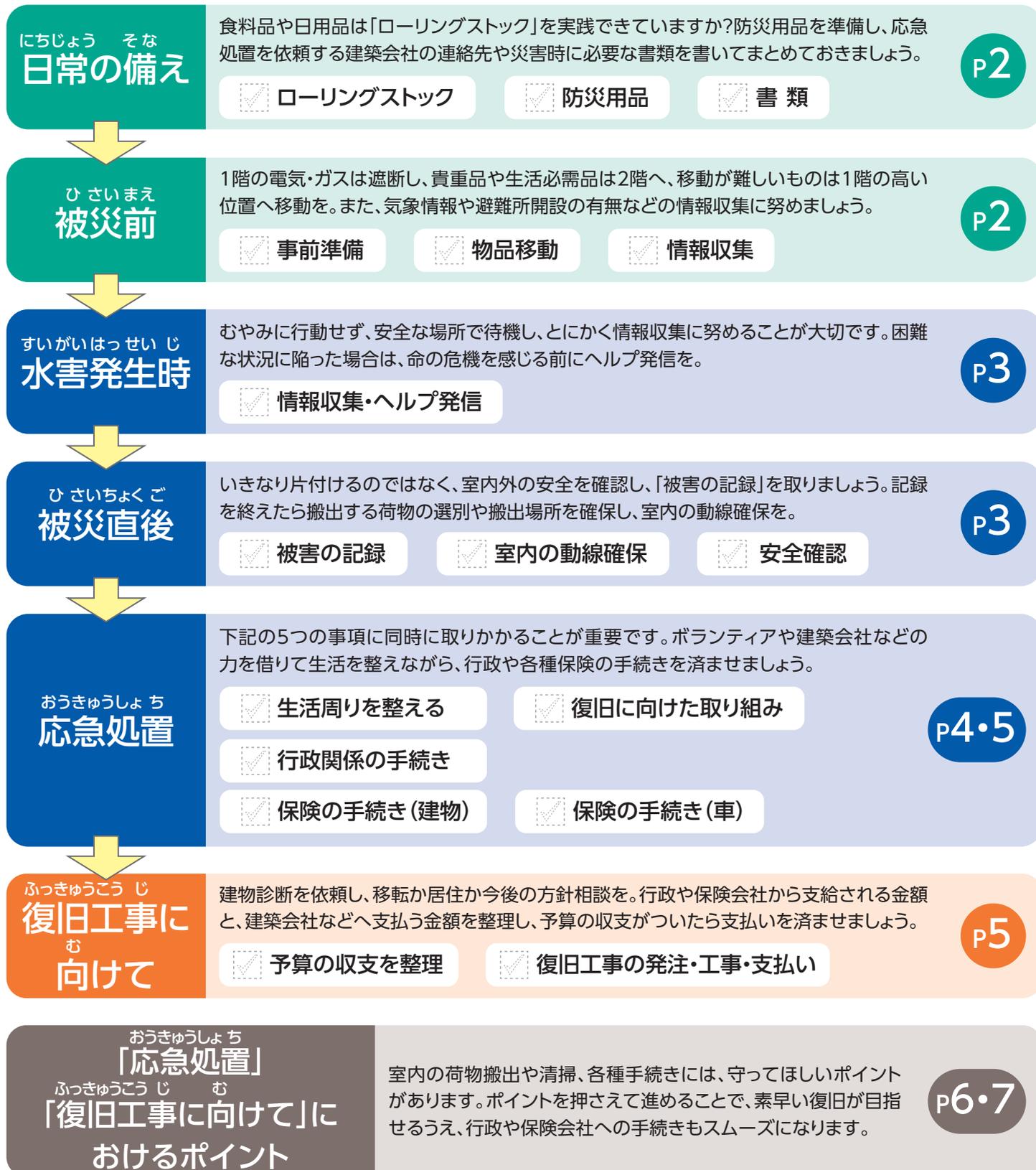
内閣府

最新の災害救助法適用地域を確認できます。適用地域になると、応急修理制度などの申請が可能になります。



しんすいひがい そな ふっきゅう なが 浸水被害の備えから復旧までの流れ

浸水被害における日頃の備えから復旧に至るまで、各ステップのフローとやるべきことをまとめました。チェックリストとしてご活用ください。



株式会社 荏原製作所

〒144-8510 東京都大田区羽田旭町 11-1
<https://www.ebara.co.jp>

監修 信州大学中谷岳史研究室
イラスト 中井 伶美
発行 株式会社荏原製作所

■本マニュアルは、荏原製作所が取り組むプロジェクト「荏原レスキュー」のひとつです。